授　業　概　要

科目名	授業の種類	授業担当者
介護の基本I	講義	木村　ひとみ（実務経験者）

授業回数	時間数（単位数）	配当学年・時期	必修・選択
３０回	６０時間（４単位）	１学年　前期	必修科目

[授業の目的・ねらい]

介護を必要とする人を生活の観点から捉える力を養う。

介護の歴史や概念、生活ニーズ等について学習をしていく中で、「生活とは何か」「介護とは何か」を考える学習とする。

[授業終了時の達成課題（到達目標）]

１　人間にとっての生活の特性と多様性を理解できる。

２　介護を必要とする人の生活ニーズを知り、生活を支えるサービスを知る。

３　介護福祉の基本理念を理解する。

[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]

コマ数

１　介護を必要とする人の理解

２　私たちの生活の理解（時代背景と暮らしの変化）

３　生活の個別性と多様性の理解

４　生活の個別性と多様性の理解

５　介護を必要とする人の生活（高齢者の生活）

６　介護を必要とする人の生活（高齢者の生活）

７　介護を必要とする人の生活（障害者の生活）

８　介護を必要とする人の生活（障害者の生活）

９　家族介護者の理解

１０　家族介護者の理解

１１　「その人らしさ」と「生活ニーズ」の理解

１２　「その人らしさ」と「生活ニーズ」の理解

１３　「その人らしさ」と「生活ニーズ」の理解

１４　介護の概念の変遷（介護福祉を取り巻く状況）

１５　介護の概念の変遷（介護福祉の歴史）

１６　介護の概念の変遷（社会の動きと介護を取り巻く制度）

１７　介護の概念の変遷（これからの生活と介護）

１８　中間まとめ

１９　介護を必要とする人の生活を支えるしくみ（介護サービスとは）

２０　介護を必要とする人の生活を支えるしくみ（フォーマルサービス）

２１　介護を必要とする人の生活を支えるしくみ（インフォーマルサービス）

２２　介護を必要とする人の生活を支えるしくみ（地域連携）

２３　介護を必要とする人の生活を支えるしくみ

２４　介護福祉の基本理念（ノーマライゼーション）

２５　介護福祉の基本理念（QOL） ２６　介護福祉の基本理念（利用者主体） ２７　介護福祉の基本理念（尊厳を支える介護） ２８　介護福祉の基本理念（自立を支える介護） ２９　介護福祉の基本理念 ３０　終講試験（解答・解説）	
[使用テキスト・参考文献] 最新介護福祉士養成講座 「介護の基本Ⅰ・Ⅱ」　第２版 　中央法規出版	[単位認定の方法及び基準] 規定の３分の２以上の出席であり、レポートおよび試験の成績が６０点以上の者に単位を認定する。

授　業　概　要

科目名	授業の種類	授業担当者
介護の基本II	講義	佐藤正幸・小林　愛 高橋和哉・原　智史 長部美穂・須藤ひろみ （実務経験者）

授業回数	時間数（単位数）	配当学年・時期	必修・選択
３０回	６０時間（４単位）	１学年　後期	必修科目

[授業の目的・ねらい]

介護福祉士の活動する場と役割を知り、専門職としての介護のありかたを考える学習とする。

また、専門職としての倫理について理解を深める。

[授業終了時の達成課題（到達目標）]

１　介護を取り巻く現状を把握し、介護福祉士の活動する場と役割を理解する。

２　自立支援のありかたについて理解する。

２　介護福祉士の倫理について理解する。

[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]

１　介護福祉士の役割　　＜佐藤正幸＞

２　介護福祉士の役割

３　介護福祉士の機能

４　介護福祉士の活動の場と役割（地域共生社会と介護福祉士の役割）　＜高橋　和哉＞

５　介護福祉士の活動の場と役割（災害時における生活支援）

６　介護福祉士の活動の場と役割（介護予防）

７　介護福祉士の活動の場と役割（医療的ケア）　＜原　智史＞

８　介護福祉士の活動の場と役割（人生の最終段階の支援）

９　介護福祉士の活動の場と役割（就労支援）　　＜長部　美穂＞

１０　介護福祉士の活動の場と役割（地域活動）

１１　自立に向けた介護福祉のあり方（自立支援の考え方）　　＜小林　愛＞

１２　自立に向けた利用者理解の視点　（ICF、エンパワメント、ストレングス）

１３　自立支援とリハビリテーション

１４　自立支援と介護予防

１５　介護予防の実際　　＜須藤ひろみ＞

１６　介護予防の実際

１７　中間まとめ

１８　介護の実践と ICF　　＜佐藤正幸＞

１９　介護の実践と ICF

２０　介護の実践と ICF

２１　介護の実践と ICF

２２　介護の実践と ICF

２３　介護の実践と ICF

２４　職業倫理と法令遵守 ２５　利用者の人権と介護（身体拘束禁止） ２６　利用者の人権と介護（虐待防止） ２７　プライバシーの保護 ２８　求められる介護福祉士 ２９　求められる介護福祉士 ３０　終講試験（解答・解説）	
［使用テキスト・参考文献］ 最新介護福祉士養成講座 「介護の基本Ⅰ・Ⅱ」　第２版 　中央法規出版	［単位認定の方法及び基準］ 規定の３分の２以上の出席であり、レポートおよび試験の評価が６０点以上の者に単位を認定する。

授　業　概　要

科目名	授業の種類	授業担当者
コミュニケーション技術I	講義	佐藤　正幸 （実務経験者）

授業回数	時間数（単位数）	配当学年・時期	必修・選択
１５回	３０時間（２単位）	１学年・前期	必修科目

［授業の目的・ねらい］

対象者との支援関係の構築やチームケアを実践するためのコミュニケーションの意義や技法を学び、介護実践に必要なコミュニケーション能力を養う学習とする。

［授業終了時の達成課題（到達目標）］

本人の置かれている状況を理解し、支援関係の構築や意思決定を支援するためのコミュニケーションの基本的な技術が身につくようにする。

［授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法］

コマ数

I　介護を必要とする人とのコミュニケーション①

1　介護におけるコミュニケーションとは

2　自己理解と他者理解①

3　自己理解と他者理解②

II　介護を必要とする人とのコミュニケーション②

4　傾聴技法①

5　傾聴技法②

6　傾聴技法③

7　メッセージをありのままに受け止める技法

8　共感的理解とコミュニケーションにおける距離

9　言語コミュニケーション

１０　非言語コミュニケーションと準言語

１１　利用者に喜ばれる言葉づかい，嫌われる言葉づかい

１２　動機づけ

１３　ものの見方に変化を生み出す技術①

１４　ものの見方に変化を生み出す技術②

１５　終講試験（解答・解説含む）

［使用テキスト・参考文献］	［単位認定の方法及び基準］
最新　介護福祉士養成講座５「コミュニケーション技術」第２版　中央法規出版	規程の３分の２以上の出席であり、筆記試験で６０点以上の者に単位を認定する。

授　業　概　要

科目名	授業の種類	授業担当者
コミュニケーション技術II	演習	木村ひとみ（実務経験者）

授業回数	時間数（単位数）	配当学年・時期	必修・選択
15 回	30 時間（１単位）	１学年・後期	必修科目

［授業の目的・ねらい］

対象者との支援関係の構築やチームケアを実践するためのコミュニケーションの意義や技法を学び、介護実践に必要なコミュニケーション能力を養う学習とする。

［授業終了時の達成課題（到達目標）］

１　障害の特性に応じたコミュニケーションの基本的技術を理解できる。

２　家族への支援やパートナーシップを構築するためのコミュニケーションの基本的な技術を理解できる。

３　介護実践における情報の共有の意義を理解し、その具体的な方法や情報の管理について理解できる。

［授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法］

コマ数

I　障害の特性に応じたコミュニケーション

１　感覚機能に障害がある人とのコミュニケーション

２　運動機能に障害がある人とのコミュニケーション

３　認知機能に障害がある人とのコミュニケーション

４　認知症のある人とのコミュニケーション

II　介護における家族とのコミュニケーション

５　家族との関係づくり

６　家族への助言・指導・調整

III　介護におけるチームのコミュニケーション

７　チームのコミュニケーション

８　報告・連絡・相談

９　記録の意義と目的

１０　記録の方法

１１　記録の管理

１２　介護記録における個人情報保護

１３　情報の活用と管理・ICT の活用

１４　会議

１５　終講試験（解答・解説含む）

［使用テキスト・参考文献］	［単位認定の方法及び基準］
最新　介護福祉士養成講座５ 「コミュニケーション技術」第２版 中央法規出版	規程の３分の２以上の出席 演習への参加態度、レポート及び試験の成績を総合して評価する。

授　業　概　要

科目名	授業の種類	授業担当者
生活支援技術Ⅰ	演習	佐藤正幸 （実務経験者）

授業回数	時間数（単位数）	配当学年・時期	必修・選択
４５回	９０時間（３単位）	１学年・通年	必修科目

［授業の目的・ねらい］

尊厳の保持や自立支援、生活の豊かさの観点から、本人主体の生活が継続できるよう、根拠に基づいた介護実践を行うための知識・技術を習得する学習とする。

［授業終了時の達成課題（到達目標）］

１　基本的介護技術におけるそれぞれの意義と目的を説明することができる

２　様々な日常場面での観察の視点を養い、述べることができる

３　介助におけるポイントや留意点を踏まえ、安全な介助を実施することができる

４　その時々の状況や個性に応じて、支援方法を適切に判断・選択することができる

［授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法］

コマ数

Ⅰ　生活支援の理解

１　生活支援技術を学ぶにあたり

２　ベッドメイキングの意義・目的と留意点

３～４　ベッドメイキング

Ⅱ　自立に向けた移動の介護

５　移動・移乗について

６　体位変換

７　移動における福祉用具の理解と歩行介助（平地）

８　移動における福祉用具の理解と歩行介助（段差）

９　中間実技試験

１０　中間実技試験

１１　車いすの操作（応用操作）

１２　車いすの操作（屋外など）

１３　移乗介助（基本動作）

１４　移乗介助（応用動作）

１５　移乗介助（様々な方法）

１６　移乗介助（まとめ）

Ⅲ　自立に向けた身じたくの介護

１７　身だしなみを整える意義・目的

１８　身だしなみの介助

１９　衣服着脱の意義・目的と留意点

２０　衣服着脱（基本）

２１　衣服着脱（応用）

２２　衣服着脱（まとめ）

２３～２４　中間実技試験

Ⅳ　自立に向けた食事の介護

２５　食事の意義・目的と留意点

２６　食事介助（基本）

２７　食事介助（応用）

２８　口腔ケア（基本）

２９　口腔ケア（応用）

３０　口腔ケア（まとめ）

Ⅵ　自立に向けた排泄の介護

３１　排泄介助の意義・目的と留意点

３２　排泄介助（トイレ介助基本）

３３　排泄介助（トイレ介助応用）

３４　排泄介助（おむつ介助基本）

３５　排泄介助（おむつ介助応用）

３６　排泄介助（まとめ）

Ⅶ　自立に向けた入浴・清潔保持の介護

３７　入浴・清潔保持の意義・目的と留意点

３８　入浴・清潔保持の介助（個浴、特殊浴槽）①

３９　入浴・清潔保持の介助（個浴、特殊浴槽）②

４０　入浴・清潔保持の介助（清拭など）

４１　睡眠の意義・目的と留意点

４２　睡眠の介助

４３　終講試験（実技試験）

４４　終講試験（実技試験）

４５　終講試験（筆記試験）

［使用テキスト・参考文献］	［単位認定の方法及び基準］
最新　介護福祉士養成講座６ 「生活支援技術Ⅰ」　中央法規出版 最新　介護福祉士養成講座７ 「生活支援技術Ⅱ」　中央法規出版	規程の３分の２以上の出席であり、総合評価６０点以上の者に単位を認定する。 （実技試験４０％，筆記試験４０％，提出物１０％，身だしなみ１０％）とする。

授　業　概　要

科目名	授業の種類	授業担当者
生活支援技術II	演習	佐藤　正幸（実務経験者）

授業回数	時間数（単位数）	配当学年・時期	必修・選択
１５回	３０時間（１単位）	１学年・後期	必修科目

［授業の目的・ねらい］

尊厳の保持や自立支援、生活の豊かさの観点から、本人主体の生活が継続できるよう、根拠に基づいた介護実践を行うための知識・技術を習得する学習とする。

［授業終了時の達成課題（到達目標）］

１　対象者の能力を活用・発揮し、自立を支援するための生活支援技術の展開方法が身につくようにする。また、実践の根拠について説明できる能力が身につくようにする。

２　健康を保持するための休息や睡眠の重要性を理解し、安眠を促す環境を整える支援の方法が身につくようにする。

３　人生の最終段階にある人と家族をケアするために、終末期の経過に沿った支援やチームケアの実践について理解できるようにする。

［授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法］

コマ数

I　生活支援の理解

１　生活支援とチームアプローチ

II　自立に向けた移動の介護

２　対象者の状態に応じた移動の介助①

３　対象者の状態に応じた移動の介助②

III　自立に向けた身じたくの介護

４　対象者の状態に応じた身じたくの介助①

５　対象者の状態に応じた身じたくの介助②

IV　自立に向けた食事の介護

６　対象者の状態に応じた食事の介助

V　自立に向けた入浴・清潔保持の介護

７　対象者の状態に応じた入浴・清潔保持の介助

VI　自立に向けた排泄の介護

８　対象者の状態に応じた排泄の介助①

９　対象者の状態に応じた排泄の介助②

VII　休息・睡眠の介護

１０　対象者の状態に応じた休息・睡眠の介助①

１１　対象者の状態に応じた休息・睡眠の介助②

VIII　人生の最終段階における介護

１２　対象者の人生の最終段階における介護職の関わり方①

１３　対象者の人生の最終段階における介護職の関わり方②

１４　対象者の人生の最終段階における介護職の関わり方③

１５　終講試験	
[使用テキスト・参考文献] 最新　介護福祉士養成講座６ 「生活支援技術Ⅰ」　中央法規出版 最新　介護福祉士養成講座７ 「生活支援技術Ⅱ」　中央法規出版	[単位認定の方法及び基準] 規程の３分の２以上の出席であり、総合評価６０点以上の者に単位を認定する。 （実技試験４０％，筆記試験４０％，提出物１０％，身だしなみ１０％）とする。

授　業　概　要

科目名	授業の種類	授業担当者
生活支援技術III	演習	桝潟未紀　元井信明 山本満智子　専任教員 （実務経験者）

授業回数	時間数（単位数）	配当学年・時期	必修・選択
３０回	６０時間（２単位）	１学年・通年	必修科目

[授業の目的・ねらい]

尊厳の保持や自立支援、生活の豊かさの観点から、本人主体の生活が継続できるよう、根拠に基づいた介護実践を行うための知識・技術を習得する学習とする。

[授業終了時の達成課題（到達目標）]

１　生活の継続性を支援する観点から、対象者が個々の状態に応じた家事を自立的に行うことを支援するための基礎的な知識・技術を習得できるようにする。

２　生活の豊かさや心身の活性化、自立支援のための居住環境の整備について基礎的な知識を理解できるようにする。

[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]

コマ数

Ⅰ　自立に向けた家事の介護　　＜山本　満智子＞

生活支援の理解

１　家庭生活の意義

２　家事の重要性

自立に向けた家事の介護

３　介護を必要とする人の衣食住

４　介護を必要とする人の衣食住

５　介護を必要とする人の衣食住

６　家庭管理・家庭経営

７　多職種との連携

８　試験（解答・解説含む）

演習　　＜専任教員＞

９　演習①　（裁縫）

１０　演習②　（裁縫）

１１　演習③

１２　演習④

１３　演習⑤

II　自立に向けた居住環境の整備　＜元井　信明＞

１４　住まいの役割と機能

１５　自立に向けた居住環境整備の視点

１６　住宅改修

１７　住宅のバリアフリー、ユニバーサルデザイン

１８　対象者の状態・状況に応じた留意点

III　福祉用具の意義と活用

１９　福祉用具の意義と目的

２０　自立に向けた福祉用具活用の視点①

２１　自立に向けた福祉用具活用の視点②

２２　適切な福祉用具の選択の知識と留意点

２３　試験（解答・解説含む）

IV　自立に向けた家事の介護　調理　＜桝潟　未紀＞

２４　調理と食事

２５　衛生管理

２６　対象者の状況に応じた食事・治療食

２７　献立作成の手順と注意点

２８　調理

２９　調理

３０　試験（解答・解説含む）

[使用テキスト・参考文献]	[単位認定の方法及び基準]
最新　介護福祉士養成講座６ 「生活支援技術I」第２版　中央法規出版 最新　介護福祉士養成講座１１ 「こころとからだのしくみ」第２版 中央法規出版	規程の３分の２以上の出席であり、試験またはレポートの成績が６０点以上の者に単位を認定する。

授　業　概　要

科目名	授業の種類	授業担当者
介護過程Ⅰ	講義	金山　聡子・木村ひとみ 佐藤　正幸 （実務経験者）

授業回数	時間数（単位数）	配当学年・時期	必修・選択
３０回	６０時間（４単位）	１学年　通年	必修科目

［授業の目的・ねらい］

介護過程（アセスメントの実施、介護計画の立案、適切な介護サービスの提供）の意義や一連の流れを展開方法、理論を理解する。また、実習体験を基に基礎的なアセスメントの立案を目指す。

［授業全体の内容の概要］

介護過程について、その意義並びに理論を学び、実践の場で基礎的な介護過程を展開していきながら、その必要性を理解していく。

［授業終了時の達成課題（到達目標）］

１　介護過程の意義について理解することができる。

２　介護過程の展開方法を理解することができる。

［授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法］

コマ数		コマ数	
1	課題解決のための思考	16	介護実習Ⅰのまとめ
2	介護過程の意義・目的	17	介護実習Ⅰのまとめ
3	介護過程の基礎的理解（全体像）	18	情報の解釈・関連付け・統合化
4	アセスメントとは（情報収集）	19	情報の解釈・関連付け・統合化
5	アセスメントとは（解釈・統合化）	20	ニーズ抽出の考え方
6	介護過程と記録（意義と目的）	21	ニーズ抽出の考え方と方法
7	介護過程と記録（実習シート）	22	生活課題の優先順位
8	情報収集の目的	23	生活課題の明確化
9	基本的な情報とその必要性	24	生活課題の表現
10	基本的な情報のまとめ方	25	個別援助計画の意義・目的
11	ICF に基づくアセスメント	26	ケアの標準化と個別化の視点
12	ICF に基づくアセスメント	27	目標の設定
13	情報収集の方法と留意点	28	具体的援助方法
14	アセスメントの実際	29	援助内容の記述方法
15	アセスメントの実際	30	まとめ

［使用テキスト・参考文献］	［単位認定の方法及び基準］
最新　介護福祉士養成講座９ 「介護過程」第２版　中央法規出版	１　規定の３分の２以上の出席 ２　授業態度、課題提出及び内容 総合的に評価し単位を認定する。

授　業　概　要

科目名	授業の種類	授業担当者
介護総合演習I	演習	金山　聡子・木村ひとみ 佐藤　正幸 （実務経験者）

授業回数	時間数（単位数）	配当学年・時期	必修・選択
３０回	６０時間（２単位）	１学年　通年	必修科目

[授業の目的・ねらい]

１　体験実習の意義とその重要性について理解する。

２　体験実習を通じて学校内で学んだ知識、技術、態度を具体的かつ実際的に理解する。

３　習得した学校内諸学習を応用し、実践的な技術等を体得する。

４　介護福祉士としての自覚を促し、専門職に求められる資質、技能及び自己に求められる課題把握等、総合的対応能力を習得する。

５　事例研究等の進め方を修得する。

[授業全体の内容の概要]

介護実習をより充実した学習とするために事前準備や振り返りを行い、学校内学習と実習体験を融合させていく。

[授業終了時の達成課題（到達目標）]

１　福祉専門職にとって実践的学習が重要であることを理解する。

２　実践を通した知識・理論の検証の重要性を理解する。

３　事例研究の進め方の基本を身につける。

[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]

コマ数

<u>知識と技術の統合</u>

I　介護実習前の集団指導

１　介護実習の根拠の確認

２　基本的なマナーや礼儀などの学習

３　ＩＣＦと介護　介護過程との関係から実践方法を学ぶ

４　記録の書き方について学習①

５　記録の書き方について学習②

６　実習の基本的な態度や実習生として学ぶ姿勢について学習

７　対人援助職としての基本的な姿勢の習得

８　利用者本位のサービスについての学習

９　プレゼンテーションの方法①

１０　プレゼンテーションの方法②

II　居宅介護実習I

１１　居宅介護実習Iの必要性の理解

１２　居宅介護実習Iの課題の理解、自己達成目標の確認

１３~１４　実習先、施設についての理解

１）サービスの種類と内容、対象者を確認する

２）関係法令等を調べ、理解する
３）機関側からの実習に関する諸注意事項についての確認と必要要件を準備する
４）各実習生から得られた資料等による実習への諸注意を伝達する
（注）教員は居宅介護実習機関との連絡打ち合わせを実施して上記演習に臨む
・学校課題の説明、施設側からの実習生への注意事項、事前実習有無等

１５~１６　実習中（直後）の集団指導
１）実習での感想を話し合う（疑問点、反省点を含めつつ言語化へ）
２）他の学生の意見、感想を聞きながら、または意見交換しながら自分自身の経験を再検討する
３）実習前に立てた自己課題と学校の実習課題について検討する
４）必要に応じて新しい自己目標を建て直す
５）居宅介護実習Iのまとめのレポートを作成する

１７　実習後の評価とまとめ
１）自己評価を作成する
２）自己評価と施設評価・教員評価を統合する

III　介護実習I

１８　介護実習Iの必要性の理解

１９　学生各自の実習への期待と自己目標の確認

２０~２１　実習先、施設についての理解
１）サービスの種類と内容、対象者を確認する
２）関係法令等を調べ、理解する
３）施設側からの実習に関する諸注意事項についての確認と必要要件の準備を行う
（注）教員は施設との連絡打ち合わせを実施して上記演習に臨む
・学校課題の説明、施設側からの実習生への注意事項、事前実習有無等

２２　実習記録の書き方
１）実習記録の書き方を確認する（使い方、書き込み手順）
２）実習記録を先輩のよい書き方例から学ぶ（記録の必要性と表現方法等の説明

２３~２４　実習中（直後）の集団指導
１）実習での感想を話し合う（疑問点、反省点を含めつつ言語化へ）
２）他の学生の意見、感想を聞きながら、または意見交換しながら自分自身の経験の再検討する
３）実習前に立てた自己課題と学校の実習課題について検討する
４）必要に応じて新しい自己目標の建て直す
５）介護実習のまとめのレポートを作成する

２５　実習後の評価とまとめ
１）自己評価を作成する
２）自己評価と施設評価・教員評価を統合する

IV　介護実習後の集団指導

２６~３０　介護実践の科学的探求（１年間の振り返り）
１）介護福祉士としての自己について１年間の学習と訓練を振り返り、自己の新た

な発見や今後に向けての決意、意志を明確にする。 ２）実習中における利用者との関係ばかりではなく、職員、家族、地域などとの人間関係のあり方についても再検討し、介護現場での介護福祉士として役割を確認する。 ３）１年間の学習を振り返り、個々の介護福祉士像を文章化し、年度末の実習報告会で発表する。	
[使用テキスト・参考文献] 1 最新　介護福祉士養成講座 10 「介護総合演習・介護実習」第２版 中央法規出版 2「介護福祉に関する記録について」本校作成	[単位認定の方法及び基準] １　規定の３分の２以上の出席 ２　課題レポート、および発表内容 総合的に評価し、６０点以上のものについて単位認定をする。

授　業　概　要

科目名	授業の種類	授業担当者
介護実習I（第１段階実習）	実習	木村　ひとみ 佐藤　正幸 金山　聡子 （実務経験者）

授業回数	時間数（単位数）	配当学年・時期	必修・選択
１日７．５時間	９０時間（２単位）	１学年　後期	必修科目

[授業の目的・ねらい]

（１）地域における様々な場において、対象者の生活を理解し、本人や家族とのコミュニケーションや生活支援を行う基礎的な能力を習得する。

（２）本人の望む生活の実現に向けて、多職種との協働の中で、介護過程を実践する能力を養う。

[授業全体の内容の概要]

コミュニケーション関係が比較的可能な障害者施設と老人施設を実習施設とし、利用者とのふれあいを通じて他者に共感できる、また、生活の理解を深め、施設職員の一般的な役割について学ぶ

[授業終了時の達成課題（到達目標）]

１　人間的なふれあいを通して利用者を理解する

２　介護に必要な基礎知識と技術を習得する

３　施設の役割を知る

[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]

介護過程の実践的展開

（１）利用者の施設での生活リズムを理解する

（２）人間的なふれあいの中で利用者とかかわりをもち、情報を得る。

（３）初歩的な日常生活援助を実践し、生活支援技術の基礎を学ぶ

（４）実習施設の特徴を知る

（５）介護福祉士の役割を知る

[使用テキスト・参考文献]	[単位認定の方法及び基準]
最新　介護福祉士養成講座 10 「介護総合演習・介護実習」中央法規出版	１　実習日程の５分の４の出席 ２　施設評価５０％ ３　学校評価５０％ 上記の総合評価６０点以上の者に単位認定をする。

授　業　概　要

科目名	授業の種類	授業担当者
居宅介護実習Ⅰ	実習	木村　ひとみ・佐藤　正幸 金山　聡子（実務経験者）

授業回数	時間数（単位数）	配当学年・時期	必修・選択
１日７．５時間	４５時間（１単位）	１学年　後期	必修科目

［授業の目的・ねらい］

（１）地域における様々な場において、対象者の生活を理解し、本人や家族とのコミュニケーションや生活支援を行う基礎的な能力を習得する。

（２）本人の望む生活の実現に向けて、多職種との協働の中で、介護過程を実践する能力を養う。

［授業全体の内容の概要］

実習に臨む姿勢を修得し、利用者とのコミュニケーションを通して、利用者の望む生活とはどういうものなのか、利用者の言葉を捉えることを学ぶ。施設実習とは異なる居宅介護の特性について学ぶ。学びを記録に残す。

［授業終了時の達成課題（到達目標）］

１　多様な生活の場があることを理解する

２　生活の場に入らせていただくことを理解し、実習に臨むことができる

３　利用者とかかわりを持つことができる。

［授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法］

<u>地域における生活支援の実践</u>

＊３つの事業所・施設において２日間ずつ計６日間の実習を行う

（１）通所介護事業所での体験実習（２日間）

・通所介護事業所においての介護業務を体験する

・利用者の心身の状態を理解し、利用者に応じたコミュニケーション技術を学ぶ

・レクリエーション活動に参加する

（２）認知症対応型共同生活介護（グループホーム）での体験実習（２日間）

・認知症対応型共同生活介護での介護業務を体験する

・利用者とのコミュニケーションや趣味活動などのかかわりを通して、認知症高齢者とのかかわり方や、役割、楽しみのある生活について学ぶ。

・安全・安楽な生活継続のための環境整備や工夫を学ぶ

（３）障害者支援施設での体験実習（２日間）

・障害者支援施設での介護業務を体験する

・利用者の心身の状態を理解し、障害に応じたコミュニケーション技術を学ぶ

［使用テキスト・参考文献］	［単位認定の方法及び基準］
最新　介護福祉士養成講座10 「介護総合演習・介護実習」中央法規出版	１　実習日程の５分の４の出席 ２　施設評価５０％ ３　学校評価５０％ 上記の総合評価６０点以上の者に単位認定をする。

授　業　概　要

科目名	授業の種類	授業担当者
介護の基本III	講義	山本満智子・佐藤正幸 （実務経験者）

授業回数	時間数（単位数）	配当学年・時期	必修・選択
１５回	３０時間（２単位）	２学年　後期	必修科目

[授業の目的・ねらい]

多職種協働の介護を実践するために、保健・医療・福祉に関する多職種の役割と機能を知り、
介護福祉士の専門性について理解を深める学習とする。

[授業終了時の達成課題（到達目標）]

１　介護実践における連携の意義や必要性を理解する。

２　介護福祉士の専門性について述べることができる。

[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]

コマ数

１　地域連携と地域包括ケアシステム　　<山本　満智子>

２　ケアマネジメントの考え方

３　多職種連携・協働の必要性

４　多職種連携・協働に求められる基本的な能力

５　保健・医療職・福祉職の役割と専門性

６　チームアプローチの実際

７　介護ニーズの変化と求められる介護福祉士

８　専門職としての介護福祉士

９　専門職としての介護福祉士

１０　事例検討　　<　佐藤　正幸　>

１１　事例検討

１２　事例検討

１３　事例検討

１４　事例検討

１５　終講試験（解答・解説含む）

[使用テキスト・参考文献]	[単位認定の方法及び基準]
最新　介護福祉士養成講座 「介護の基本II」第２版　中央法規出版	規定の３分の２以上の出席であり、レポートまたは試験の評価が６０点以上の者に単位を認定する。

授　業　概　要

科目名	授業の種類	授業担当者
介護の基本IV	講義	佐藤正幸（実務経験者）

授業回数	時間数（単位数）	配当学年・時期	必修・選択
１５回	３０時間（２単位）	２学年　後期	必修科目

[授業の目的・ねらい]

介護における安全について理解する。

[授業全体の内容の概要]

介護における安全の確保とリスクマネジメントについて学習するとともに、介護従事者自身の安全についても学習する。

[授業終了時の達成課題（到達目標）]

利用者と介護従事者双方の安全を管理する基本的能力を身につける。

[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]

コマ数

I　介護における安全の確保

１　介護における安全の確保とリスクマネジメント①(観察・予測・分析)

２　介護における安全の確保とリスクマネジメント②(セーフティマネジメント)

II　事故防止、安全対策　　＜佐藤正幸＞

３　事故防止、安全対策のためのリスクマネジメントのしくみ

４　事故防止、安全対策の基礎と実際(防火・防災対策・緊急連絡システム)

５　誤嚥・呼吸困難・転倒・転落・骨折の予防

６　応急手当①（誤嚥・呼吸困難）

７　応急手当②（骨折・外傷）

８　救急蘇生

９　救急蘇生法演習①　　＊消防署に依頼

１０　救急蘇生法演習②　　＊消防署に依頼

III　感染対策

１１　生活の場における感染症・感染対策の基礎知識（感染症発生時の対応等）

IV　薬剤の取扱いに関する基礎知識と連携

１２　安全な薬物療法を支える視点（医師法 17 条及び保健師助産師看護師法 31 条の解釈）

IV　介護従事者の安全

１３　介護従事者の安全①（こころの健康管理　ストレス　燃え尽き症候群等）

１４　介護従事者の安全②（身体の健康管理｛感染・腰痛予防｝、安心して働ける環境づくり）

１５　終講試験（解答・解説含む）

[使用テキスト・参考文献]	[単位認定の方法及び基準]
1「介護の基本II」第２版　中央法規出版 2「生活支援技術I」第２版　中央法規出版	終講試験が６０点以上の者に単位を認定する。

授　業　概　要

科目名	授業の種類	授業担当者
生活支援技術IV	演習	木村ひとみ・佐藤正幸 （実務経験者）

授業回数	時間数（単位数）	配当学年・時期	必修・選択
１５回	３０時間（１単位）	２学年・前期	必修科目

［授業の目的・ねらい］

尊厳の保持や自立支援、生活の豊かさの観点から、本人主体の生活が継続できるよう、根拠に基づいた介護実践を行うための知識・技術を習得する学習とする。

［授業終了時の達成課題（到達目標）］

介護福祉士として実務につくための基礎的な知識・技術をふまえたうえで、事例に対する適切な支援の方法を実践することができる。

［授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法］

I　休息・睡眠の介護

1　オリエンテーション

事例１「ベッドメイキング」の事例提示と練習

2　練習

3　チェックテスト

II　自立に向けた移動の介護

4　事例２「体位変換」の事例提示と練習

5　練習

6　チェックテスト

III　自立に向けた身じたくの介護

7　事例３「着脱介助」の事例提示と練習

8　練習

9　チェックテスト

IV　自立に向けた排泄の介護

１０　事例４「排泄介助」の事例提示と練習

１１　練習

１２　チェックテスト

V　自立に向けた移動の介護

１３　事例５「移乗介助」の事例提示と練習

１４　練習

１５　チェックテスト

［使用テキスト・参考文献］

最新　介護福祉士養成講座６

「生活支援技術I」　中央法規出版

最新　介護福祉士養成講座７

「生活支援技術II」　中央法規出版

［単位認定の方法及び基準］

規程の３分の２以上の出席であり、全ての試験による成績が６０点以上の者に単位を認定する。

授　業　概　要

科目名	授業の種類	授業担当者
生活支援技術V	演習	木村ひとみ 髙橋純・鈴木知佳・佐藤希 蛯澤みゆき・五十嵐八一 西脇秀和・山田留実 （実務経験者）

授業回数	時間数（単位数）	配当学年・時期	必修・選択
４５回	９０時間（３単位）	２学年・通年	必修科目

[授業の目的・ねらい]

尊厳の保持や自立支援、生活の豊かさの観点から、本人主体の生活が継続できるよう、根拠に基づいた介護実践を行うための知識・技術を習得する学習とする。

[授業終了時の達成課題（到達目標）]

障害の特性に応じた支援の方法や環境整備について基礎的な知識・技術を習得できるようにする。

[授業の日程と各界のテーマ・内容・授業方法]

コマ数

１　肢体不自由に応じた生活支援　＜鈴木　知佳＞
２　肢体不自由に応じた生活支援
３　肢体不自由に応じた生活支援
４　肢体不自由に応じた生活支援
５　高次脳機能障害に応じた生活支援
６　高次脳機能障害に応じた生活支援
７　高次脳機能障害に応じた生活支援
８　高次脳機能障害に応じた生活支援
９　重症心身障害に応じた生活支援　＜五十嵐　八一＞
１０　重症心身障害に応じた生活支援
１１　重症心身障害に応じた生活支援
１２　試験
１３　内部障害に応じた生活支援　（心臓機能障害）　＜佐藤　希＞
１４　内部障害に応じた生活支援　（呼吸機能障害）
１５　内部障害に応じた生活支援　（腎機能障害）
１６　内部障害に応じた生活支援　（膀胱・直腸機能障害）
１７　内部障害に応じた生活支援　（小腸機能障害）
１８　内部障害に応じた生活支援　（肝臓機能障害・免疫機能障害）
１９　難病のある人の生活支援　（筋萎縮性側索硬化症）　＜蛯澤　みゆき＞
２０　難病のある人の生活支援　（パーキンソン病）
２１　難病のある人の生活支援　（悪性関節リウマチ・関節リウマチ）

２２　難病のある人の生活支援　（筋ジストロフィー）	
２３　試験	
２４　聴覚・言語障害に応じた生活支援	＜高橋　純＞
２５　聴覚・言語障害に応じた生活支援	
２６　聴覚・言語障害に応じた生活支援	
２７　視覚障害に応じた生活支援	＜木村　ひとみ＞
２８　視覚障害に応じた生活支援	
２９　視覚障害に応じた生活支援	
３０　重複障害盲ろう	
３１　重複障害盲ろう	
３２　試験	
３３　知的障害に応じた生活支援	＜西脇　秀和＞
３４　知的障害に応じた生活支援	
３５　知的障害に応じた生活支援	
３６　知的障害に応じた生活支援	
３７　発達障害に応じた生活支援	
３８　発達障害に応じた生活支援	
３９　発達障害に応じた生活支援	
４０　発達障害に応じた生活支援	
４１　精神障害に応じた生活支援	＜山田　留実＞
４２　精神障害に応じた生活支援	
４３　精神障害に応じた生活支援	
４４　精神障害に応じた生活支援	
４５　試験	

[使用テキスト・参考文献]	[単位認定の方法及び基準]
最新　介護福祉士養成講座８ 「生活支援技術III」第２版　中央法規出版	規程の３分の２以上の出席であり、試験又はレポートで６０点以上の者に単位を認定する。

授　業　概　要

科目名	授業の種類	授業担当者
介護過程II	演習	木村ひとみ・佐藤　正幸 金山　聡子 （実務経験者）

授業回数	時間数（単位数）	配当学年・時期	必修・選択
４５回	９０時間（３単位）	２学年　通年	必修科目

[授業の目的・ねらい]

実習での体験等を用いながらアセスメントの実施、介護計画の立案、適切な介護サービスの提供を行い、介護過程を展開できる能力を養う。

[授業全体の内容の概要]

介護過程について、アセスメントからモニタリングまでの一連の流れを実践の場で展開しうる能力を身につけていく。また、介護福祉士の視点からのチームアプローチについて熟知し、実践において幅広い視野を持って介護過程を展開できる能力を身につけていく。

[授業終了時の達成課題（到達目標）]

1　ＩＣＦの基礎的概念が理解でき、さまざまな対象者の介護過程を展開できる。

2　介護過程の展開において、チームアプローチの視点を取り入れることができる。

[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]

コマ数

1　チームアプローチにおける介護福祉士の役割

2　介護計画（個別支援計画書）の実際

3　介護計画の例①（Ａ、Ｂ）

4　介護計画の例②（Ａ、Ｂ）

5　介護記録の意義

6　介護計画と実施と記録①

7　介護計画と実施と記録②

8　介護過程の実践的展開の事例検討①（特別養護老人ホームの事例）

9　介護過程の実践的展開の事例検討②（老人保健施設の事例）

10　介護過程の実践的展開の事例検討③（障害者支援施設の事例）

11　介護過程の実践的展開の事例検討④（在宅・高齢者の事例）

12～17　実習課題の振り返り（個人ワーク・グループワーク）

18　介護過程とケアマネジメントの関係性

19　チームアプローチの意義

20　介護過程とチームアプローチの関係性

21　医療関係者との連携–療養型病床群の介護職員と看護職員の連携例

22　他の福祉専門職との連携–介護福祉士会の活動と研修の紹介

23　地域における連携–小規模多機能型施設の職員と地域住民との関係のあり方

24　利用者のさまざまな生活と介護過程の展開の理解①

25　利用者のさまざまな生活と介護過程の展開の理解②

26　理論と実践方法論

27　アセスメントからの情報の要点整理、個人ケアプランの作成方法 28　ニーズを捉える７つの視点と情報収集 29～33　実習課題の振り返り（個人ワーク・グループワーク） 34　事例報告会について 35～36　発表テーマの選定 37～38　事例の情報整理 39～40　テーマを軸にした分析 41～42　発表原稿・抄録の作成 43　事例報告会リハーサル 44　事例報告会 45　事例報告会	
[使用テキスト・参考文献] １最新　介護福祉士養成講座９ 「介護過程」第２版　中央法規出版 ２「ケアプランに活かすＩＣＦの視点」日総研出版	[単位認定の方法及び基準] １　規程の出席が３分の２以上 ２　授業態度、プレゼンテーションの内容 総合的に評価し、６０点以上を合格とする。

授　業　概　要

科目名	授業の種類	授業担当者
介護総合演習II	演習	木村ひとみ・佐藤　正幸 金山　聡子 （実務経験者）

授業回数	時間数（単位数）	配当学年・時期	必修・選択
３０回	６０時間（２単位）	２学年　通年	必修科目

[授業の目的・ねらい]

１　体験実習の意義とその重要性について理解する。

２　体験実習を通じて学校内で学んだ知識、技術、態度を具体的かつ実際的に理解する。

３　習得した学校内諸学習を応用し、実践的な技術等を体得する。

４　介護福祉士としての自覚を促し、専門職に求められる資質、技能及び自己に求められる課題把握等、総合的対応能力を習得する。

５　事例研究等の進め方を修得する。

[授業全体の内容の概要]

介護実習をより充実した学習とするために事前準備や振り返りを行い、学校内学習と実習体験を融合させていく。

[授業終了時の達成課題（到達目標）]

１　福祉専門職にとって実践的学習が重要であることを理解する。

２　実践を通した知識・理論の検証の重要性を理解する。

３　事例研究の進め方の基本を身につける。

[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]

<u>知識と技術の統合</u>

I　介護実習II

１　介護実習IIの必要性の理解

２　2年間の実習全体像を把握

３　学生各自の実習への期待と自己目標の確認

４～５　実習先、施設についての理解

１）サービスの種類と内容、対象者を確認する

２）関係法令等を調べ、理解する

３）施設側からの実習に関する諸注意事項についての確認と必要要件の準備を行う

（注）教員は施設との連絡打ち合わせを実施して上記演習に臨む

・学校課題の説明、施設側からの実習生への注意事項、事前実習有無等

６　実習記録の書き方

１）実習記録の書き方を確認する（使い方、書き込み手順）

２）実習記録を先輩のよい書き方例から学ぶ（記録の必要性と表現方法等の説明

７～８　実習中（直後）の集団指導

１）実習での感想を話し合う（疑問点、反省点を含めつつ言語化へ）

２）他の学生の意見、感想を聞きながら、または意見交換しながら自分自身の経験の再検討する

３）実習前に立てた自己課題と学校の実習課題について検討する

４）必要に応じて新しい自己目標の建て直す

５）介護実習のまとめのレポートを作成する

９　実習後の評価とまとめ

１）自己評価を作成する

２）自己評価と施設評価・教員評価を統合する

II　居宅介護実習II

１０～１１　居宅介護実習IIの必要性の理解

１）訪問介護、障害者支援についての学習の振り返りをする

２）訪問介護、障害者支援の具体的方法について演習を通して確認する

３）居宅介護実習IIの課題を理解し、達成できるように自己達成目標や手順を明確にする

４）学生各自の実習への期待と自己目標を立てる

１２～１３ 実習先、施設についての理解

１）サービスの種類と内容、対象者を確認する

２）関係法令等を調べ、理解する

３）機関側からの実習に関する諸注意事項についての確認と必要要件の準備

４）各実習生から得られた資料等による実習への諸注意伝達

（注）教員は居宅介護実習機関との連絡打ち合わせを実施して上記演習に臨む

・学校課題の説明、施設側からの実習生への注意事項、事前実習有無等

１４～１５　実習中（直後）の集団指導

１）実習での感想を話し合う（疑問点、反省点を含めつつ言語化へ）

２）他の学生の意見、感想を聞きながら、または意見交換しながら自分自身の経験を再検討する

３）実習前に立てた自己課題と学校の実習課題について検討する

４）必要に応じて新しい自己目標の建て直す

５）居宅介護実習IIのまとめのレポートを作成する

１６　実習後の評価とまとめ

１）自己評価を作成する

２）自己評価と施設評価・教員評価を統合する

III　介護実習III

１７　介護実習II・IIIの必要性の理解

１８　2年間の実習全体像を把握

１９　学生各自の実習への期待と自己目標の確認

２０～２１　実習先、施設についての理解

１）サービスの種類と内容、対象者を確認する

２）関係法令等を調べ、理解する

３）施設側からの実習に関する諸注意事項についての確認と必要要件の準備を行う

（注）教員は施設との連絡打ち合わせを実施して上記演習に臨む

・学校課題の説明、施設側からの実習生への注意事項、事前実習有無等

２２　実習記録の書き方

１）実習記録の書き方を確認する（使い方、書き込み手順）

２）実習記録を先輩のよい書き方例から学ぶ（記録の必要性と表現方法等の説明

２３~２４　実習中（直後）の集団指導

１）実習での感想を話し合う（疑問点、反省点を含めつつ言語化へ）

２）他の学生の意見、感想を聞きながら、または意見交換しながら自分自身の経験の再検討する

３）実習前に立てた自己課題と学校の実習課題について検討する

４）必要に応じて新しい自己目標の建て直す

５）介護実習のまとめのレポートを作成する

２５　実習後の評価とまとめ

１）自己評価を作成する

２）自己評価と施設評価・教員評価を統合する

IV　介護実習後の集団指導

２６~３０　介護実践の科学的探求（２年間の振り返り）

１）介護福祉士としての自己について２年間の学習と訓練を振り返り、就職に向けての方向付けや決意、意志を明確にする。

２）実習中における利用者との関係ばかりではなく、職員、家族、地域などとの人間関係のあり方についても再検討し、介護現場での介護福祉士として役割を確認する。

３）2年間の学習を振り返り、介護福祉士としての介護観を文章化し、年度末の実習報告会で発表する。

[使用テキスト・参考文献]	[単位認定の方法及び基準]
１　最新　介護福祉士養成講座 10 「介護総合演習・介護実習」第２版 中央法規出版 2「介護福祉に関する記録について」本校作成	１　規定の３分の２以上の出席 ２　課題レポート、および発表内容 総合的に評価し、６０点以上のものについて単位認定をする。

授　業　概　要

科目名	授業の種類	授業担当者
介護実習II（第２段階実習）	実習	木村　ひとみ・佐藤　正幸 金山　聡子（実務経験者）

授業回数	時間数（単位数）	配当学年・時期	必修・選択
１日７．５時間	９０時間（２単位）	２学年　前期	必修科目

［授業の目的・ねらい］

（１）地域における様々な場において、対象者の生活を理解し、本人や家族とのコミュニケーションや生活支援を行う基礎的な能力を習得する。

（２）本人の望む生活の実現に向けて、多職種との協働の中で、介護過程を実践する能力を養う。

［授業全体の内容の概要］

多職種との協働の中で、介護福祉士としての役割を理解するとともに、サービス担当者会議やケースカンファレンス等を通じて、多職種連携やチームケアを体験的に学ぶ。

［授業終了時の達成課題（到達目標）］

1　施設の介護計画に基づいた基本的生活支援を理解することができ、支援方法を考えることができる。また生活支援を行うことができる

2　多職種との連携を通じ、チームの一員としての介護福祉士の役割について理解する。

3　対象者の観察から、生活課題を導き出すことができる。

［授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法］

介護過程の実践的展開

（１）利用者個々の生活リズムと個性がわかる

（２）個別性のある介護の必要性がわかる

（３）利用者の介護計画に基づいた生活支援の基本が実践できる

（４）利用者の個別性を理解し、その方に合った生活支援技術が提供できる。

多職種協働の実践

（５）多職種協働や関係機関との連携を通じてチームの一員としての介護福祉士の役割を知る

（６）カンファレンス等に参加し、利用者の生活の質を向上させる取り組みを学ぶ。

（７）実習施設の施設方針、役割、構造などがわかる。

（８）情報収集の必要性を理解し、情報収集の仕方、記録の仕方を学ぶ

（９）情報から介護計画の立案方法を学ぶ

［使用テキスト・参考文献］	［単位認定の方法及び基準］
最新　介護福祉士養成講座10 「介護総合演習・介護実習」中央法規出版	1　実習日程の５分の４の出席 2　施設評価５０％ 3　学校評価５０％ 上記の総合評価６０点以上の者に単位認定をする。

授　業　概　要

科目名 介護実習III（第３段階実習）	授業の種類 実習	授業担当者 木村　ひとみ・佐藤　正幸 金山　聡子（実務経験者）

授業回数	時間数（単位数）	配当学年・時期	必修・選択
１日７．５時間	１８０時間（４単位）	２学年　後期	必修科目

［授業の目的・ねらい］

（１）地域における様々な場において、対象者の生活を理解し、本人や家族とのコミュニケーションや生活支援を行う基礎的な能力を習得する。

（２）本人の望む生活の実現に向けて、多職種との協働の中で、介護過程を実践する能力を養う。

［授業全体の内容の概要］

介護過程の展開を通して対象者を理解し、本人主体の生活と自立を支援するための介護過程を実践的に学ぶ。

［授業終了時の達成課題（到達目標）］

１　利用者個々の生活リズムや個性に応じた生活支援の在り方を理解する

２　一連の介護過程の展開を継続的に実践することができる

３　チームの一員として介護を遂行することができる

４　介護福祉士を目指すものとして専門性のあり方を理解できる

［授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法］

介護過程の実践的展開

（１）利用者のADL等に対応した介護技術が適切に活用できるようになる。

（２）実践した介護に対し、利用者の反応や結果を把握して記録し、評価・考察することによりそれぞれの介護過程を認識できるとともに、次回の介護に生かすことができるようになる

（３）対象者の生活課題を把握し、介護計画の立案、展開の方法、記録について学ぶ

（４）学生カンファレンス実施し、指導者の承諾を得た後、計画を実践し、結果を評価・考察する

（５）介護の継続性を認識し、介護過程の展開について理解できるようになる

多職種協働の実践

（６）看護業務を実際に見学し、利用者の健康管理や、異常の早期発見、また事故時の対応と保健・医療・福祉関係者への連携について学ぶ。

（７）その他の関係職種（相談援助、ﾘﾊﾋﾞﾘﾃｰｼｮﾝ、栄養士など）の業務について学び、ﾁｰﾑﾜｰｸの必要性を学ぶ

（８）職業倫理を身につけ、介護観を持つことができるようになる

［使用テキスト・参考文献］	［単位認定の方法及び基準］
最新 介護福祉士養成講座10 「介護総合演習・介護実習」中央法規出版	１　実習日程の５分の４の出席 ２　施設評価５０％ ３　学校評価５０％ 上記の総合評価６０点以上の者に単位認定をする。

授　業　概　要

科目名	授業の種類	授業担当者
居宅介護実習II	実習	木村　ひとみ・佐藤　正幸 金山　聡子（実務経験者）

授業回数	時間数（単位数）	配当学年・時期	必修・選択
１日７．５時間	４５時間（１単位）	２学年　前期	必修科目

[授業の目的・ねらい]

（１）地域における様々な場において、対象者の生活を理解し、本人や家族とのコミュニケーションや生活支援を行う基礎的な能力を習得する。

（２）本人の望む生活の実現に向けて、多職種との協働の中で、介護過程を実践する能力を養う。

[授業全体の内容の概要]

小規模多機能型居宅介護における介護を体験する。

生活形態、家族との関係、自立支援、家族への援助、保健医療との連携などをテーマにして実習を行う。

[授業終了時の達成課題（到達目標）]

１小規模多機能型居宅介護における利用者支援のあり方を見学・体験し、利用者の生活ニーズに応じた介護方法を理解できる。

２多職種協働や関係機関との連携を通じて、チームの一員としての介護福祉士の役割について理解できる。

[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]

<u>地域における生活支援の実践</u>

（１）事業所職員に同行し、各家庭における介護を体験する。

（２）利用者の生活状況を把握し、生活課題に応じて提供される介護サービスについて学ぶ。

（３）利用者の心身の状態、生活環境に応じた介護方法や工夫・留意点を学ぶ。

（４）利用者が住み慣れた地域での生活を継続するために利用しているサービスを理解し、多職種との連携を学ぶ。

[使用テキスト・参考文献]	[単位認定の方法及び基準]
最新　介護福祉士養成講座 10 「介護総合演習・介護実習」中央法規出版	1　実習日程の５分の４の出席 2　施設評価５０％ 3　学校評価５０％ 上記の総合評価６０点以上の者に単位認定をする。